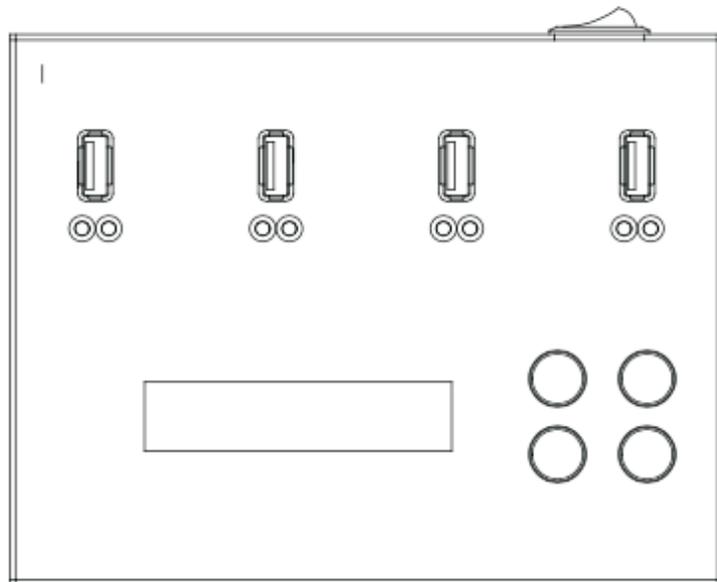


USB3.0 デュプリケーター (USB/USB-HDD)

ユーザーマニュアル



目次

vA.02

製品免責事項	3
保証書	3
海賊版ステートメント	3
ご使用の前に	4
お知らせマーク	4
製品紹介	5
機能テーブル	6
[デュプリケーター]	11
1.コピー	11
2.比較	12
3.コピー+比較	12
4.フォーマットを行う	12
5.消去	13
6.ユーティリティ	14
7.セットアップ	16
8.作業モード	20
[テスター]	20
1.メディアチェック	20
2.信号の検出	23
3.速度測定	23
4.フォーマットを行う	24
5.ユーティリティ	25
6.作業モード	26

製品免責事項

本製品を使用したことによる財産上の損害、時間またはデータの損失、あるいは製品の誤作動または故障に起因するその他の損害（提供された資料の信頼に起因するもの、製品の交換費用、使用、データまたは利益の損失、遅延または事業の中断、使用、総合性能、サービスの遅延、またはサービスを提供する能力の欠如に起因または関連する法的責任に関する原則）を含むが、それに限らず、メーカーはいかなる付帯的または派生的損害に対して責任を負うものではありません。本書の内容は、予告なく変更することがあります。しかし、お客様は、当社製品の出力がお客様の品質要求を満たしていることを確認する責任を負います。また、お客様は、当社製品の不適切な使用、ソフトウェアプログラム、および/またはハードウェアの問題が、データの損失、フォーマット不良、または信頼性の低いデータの読み込みを引き起こす可能性があることを認めます。製造者は、保証期間内または時間および材料ベースで、お客様が認識した問題を解決または修理するよう努力します。仕様および機能は、予告なく変更されることがあります。

保証書

ケーブルやアダプターなどの消耗品を除く全製品を対象に、1年間の部品・工賃の基本保証を提供します。延長保証を購入することも可能です。電話および電子メールによるサポートは、サプライヤーが定義する製品寿命までご利用いただけます。

すべての保証は市場地域に固有のものであり、製品が購入された市場地域ごとに定義されます。

海賊版ステートメント

弊社機器の著作権侵害や誤用について、弊社は一切の責任を負いません。著作権者の許可なくデータ（音声、映像、ソフトウェア）をコピーすることは違法です。著作権者の合法的な著作権を尊重することは、使用者の責任です。

ご使用の前に

- 操作する前に、取扱説明書全体をよくお読みください。
- ファームウェアのアップデート中は、絶対に電源を切らないでください。
- デバイスは高速に動作するため、高温になります。火傷をしないように保護手袋を着用してください。
- 高温で動作するデバイスは、動作が遅くなったり、シャットダウンすることがあります。デバイスが過熱していないことを確認してください。
- ESDを防止するため、機械と作業者が適切に接地されていることを確認してください。
- ソースデバイスが正しく、機能していることを確認する。
- データの一貫性を保証するために、ソースとターゲットの容量は同じにすることをお勧めします。
- コピー+比較」機能を使えば、最も完璧な複製が可能です。
- 当社の取扱説明書に従わないために発生した損害は、保証の対象外となります。
- 使用しないときは、子供の手の届かないところに安全に保管してください。
- 承認された安定した電源のみを使用してください。
- 製品は、清潔で乾燥した、埃のない、換気の良い場所でのみ使用してください。液体や異物が混入すると、デュプリケータに重大な損傷を与える可能性があります。
- 動作中に機械が熱くなるのは一般的なことです。
- 使用中は、デュプリケータを動かしたり、デバイスを取り外したりしないでください。
- 静電気が発生すると、デュプリケーションエラーになることがあります。印刷機の環境、オペレーターの設備にご注意ください。静電気の多い場所では、静電気ショックを避けるため、静電気除去装置をご購入ください。
- デバイスは、選択されたタスクの間、高温で動作します。
- デバイスを取り扱う際は、火傷防止のため保護手袋を着用してください。

お知らせマーク

使用前に遵守すべき特別な項目、手順、または注意事項。

備考

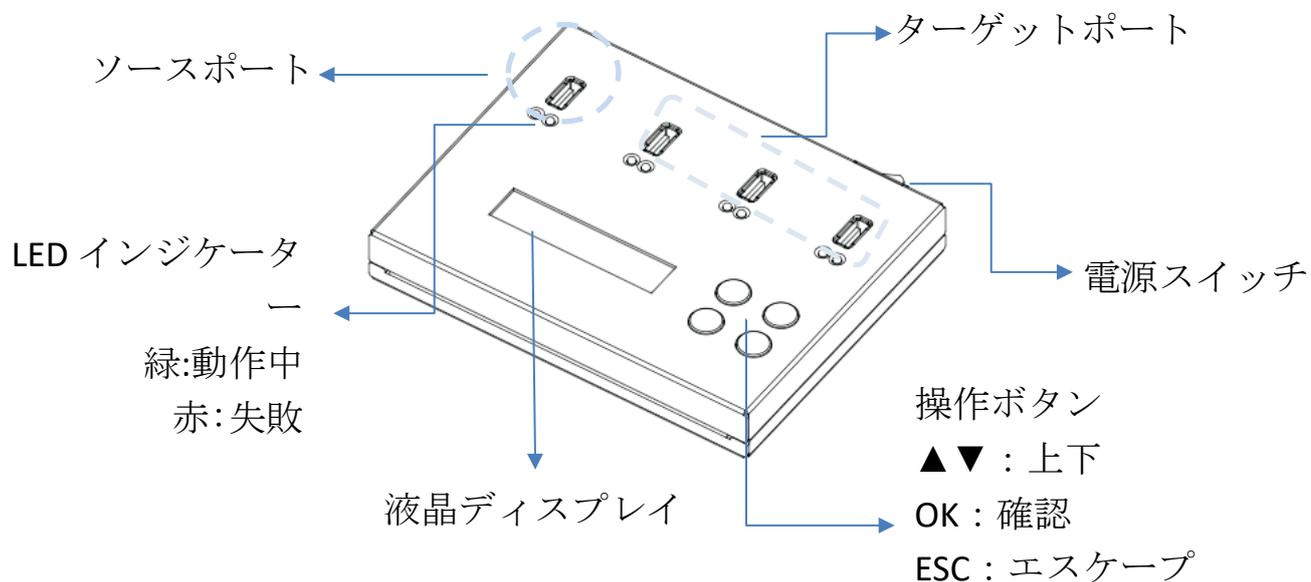
操作、特別な詳細、操作効果のためのヒント、または提案について言及する。

注意事項

遵守すべき手順や注意事項を指します。

製品紹介

1.ハードウェアの概要



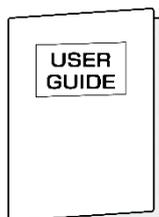
2.パッケージ内容



デュプリケーター
x1



AC.アダプターx1



取扱説明書x1



グローブ 1組

*機器を取り扱う際は、火傷防止のため保護手袋を着用してください。

機能一覧

*以下の機能・仕様は予告なく変更されることがあります。

デュプリケータメニュー

機能	説明
1.コピー	データのコピーを行います。
2.比較する	ソースとターゲットをビット単位で比較します。
3.コピー & コンペア	最初にコピーを行い、完了後コピー先とコピー元を比較します。
4.フォーマット	1.オートフォーマット メディアを FAT16 または 32 に自動フォーマットします。
	2.FAT16 形式 メディアを FAT16 にフォーマットします。
	3.FAT32 形式 メディアを FAT32 にフォーマットします。
	4.FAT 16 クラスタサイズを設定する FAT16 クラスタサイズを設定します。
	5.FAT 32 クラスタサイズを設定する FAT32 クラスタサイズを設定します。
5.消去	5.1 クイック消去 メディアの先頭セクタのみ消去します。データが完全に消去されないため、同一環境ですぐに再利用する時以外は使用しないでください。
	5.2 フル消去 全ての領域を 1 回上書き消去します。
	5.3 DoD 消去 米国国防総省 (DoD) 規格に準拠した 3 回上書き消去機能。
6.ユーティリティ	6.1 USB Info. フラッシュのデータ情報、ファイル形式、コンテンツサイズ、容量が表示される機能です。
	6.2 システム情報 型番やソフトウェアのバージョンなどのシステム情報を表示する機能です。
	6.3 システムのアップデート フラッシュメディアによるシステムファームウェアのアップデート。

7.セットアップ	7.1 コピー領域	7.1.1 システムとファイル コピー元データの形式を自動解析し、データ領域のみをコピーします。(FAT16/32、NTFS、Linux - ext2/ext3/ext4/LVM で使用可能です)
		7.1.2 メディア全体 空いたスペースも含めて、メディアの内容全体をコピーします。
	7.2 GPT バックアップ領域のコピー GPT バックアップ領域をコピーする場合は、この機能を有効にします。	
	7.3 ボタン音 ボタンが押されたときのビープ音の有効／無効を設定します。	
	7.4 アクティブ USB リビジョン アクティブにする USB プロトコルを選択します。	USB 2.0/3.0 両方
		USB2.0 のみ
		USB3.0 のみ
	7.5 コピー前の USB 信号のチェック USB 信号の事前チェックを行い、Copy を行うことができるようにする。	チェックしない
		チェックする
	7.6 ターゲット・トレランス ソースとターゲットの間の容量許容範囲を設定します。デフォルトは “No limit ” です。	制限なし
		100%一致
		許容範囲%
	7.7 非同期 Enable にすると非同期機能が開きます。Disable にするとこの機能を閉じます。	有効
		無効
7.8 コピー＋コンペア間の電源オフ時間 Copy と Compare の間の電源オフ時間を設定します。		
7.9 言語 システム言語を設定します。		
7.10 イレーズマスターポート ソースポートを消去/フォーマットするかどうかを設定します。		
7.11 スキップソースバッドセクター ソースの不良セクタの許容数を設定します。		
7.12 コピー後のディスクシグネチャを削除する Disk Signature After Copy をユーザーが削除できるようにするかどうか。		

	7.13 デフォルトに設定する すべてをメーカー出荷時の設定に戻します。
8.動作モード 2つの動作モードには、それぞれ異なるメニューが用意されています。	8.1.デュプリケータ :コピーや消去を行うモード
	8.2.テスター :メディアチェックを行うモード

テスターメニュー

機能	説明	
1.メディアチェック	1.1 H2(キープフォーマット) H2 ファイルの読み書きを行うことで、フラッシュの品質をチェックします。この機能により、フラッシュの内容は変更されますが、元のフォーマットは維持されます。	
	1.2 H2(データ保持) H2 ファイルの読み書きを行うことで、フラッシュの品質をチェックします。この機能によってフラッシュの内容やフォーマットが変更されることはありません。	
	1.3 H2(オーバーライト) H2 ファイルの読み書きを行うことで、フラッシュの品質をチェックします。この機能により、フラッシュの内容や形式が変更されます。	
	1.4 H5(キープフォーマット) フラッシュの品質を読み出しと書き込みでチェックします。この機能は、フラッシュの内容を変更しますが、元の形式を維持します。	
	1.5 H5(データ保持) フラッシュの品質を読み出しと書き込みでチェックします。この機能によって、フラッシュの内容やフォーマットが変更されることはありません。	
	1.6 H5(オーバーライト) フラッシュの品質を読み出しと書き込みでチェックします。この機能により、フラッシュの内容や形式が変更されます。	
	1.7 セットアップ範囲 %. フラッシュのチェック範囲のパーセンテージを設定します。	1%~100%まで。
	1.8 セットアップ範囲 MB フラッシュのチェック範囲を MB で設定します。	1~9000MB まで。
	1.9 Set Error Limit フラッシュチェック時のエラー許容範囲を設定します。	セクタ、KB、MB、GB で設定する。
	1.10 最小読み取り速度 読み出し速度の最小値を設定します。	0~260MB/SEC
	1.11 最低書き込み速度 書き込み速度の最小値を設定します。	0~260MB/SEC
	1.12 容量制限を設定する	上限値の設定
下限値設定		

		クリアリミット
		不要
	1.13 USB 信号の事前チェック	USB3 信号
		USB2 信号
		USB2,3 信号
2.信号の検出	2.1.USB2 と USB3 デバイスの USB2.0 と USB3.1 両方の信号を検出します。	
	2.2.USB3 のみ デバイスの USB3.1 信号を検出します。	
	2.3.USB2 のみ デバイスの USB2.0 信号を検出します。	
3.速度測定	USB の読み出しと書き込みの速度を測定します。	
4.フォーマットを行う	4.1 オートフォーマット メディアを FAT16 または 32 に自動フォーマット。	
	4.2 FAT16 フォーマット メディアを FAT16 にフォーマットする。	
	4.3 FAT32 形式 メディアを FAT32 にフォーマットする。	
	4.4 FAT 16 クラスタサイズの設定 FAT16 クラスタサイズを設定します。	
	4.5 FAT 32 クラスタサイズの設定 FAT 32 Cluster Size を設定します。	
5.ユーティリティ	5.1.USB 情報。 フラッシュのデータ情報、ファイル形式、コンテンツサイズ、容量が表示される機能です。	
	5.2.システム情報です。 型番やソフトウェアのバージョンなどのシステム情報を表示する機能です。	
	5.3.システムの更新 フラッシュメディアによるシステムファームウェアのアップデート。	
6.作業モード 2つの動作モードには、それぞれ異なるメニューが用意されています。	6.1 デュプリケーター	
	6.2 テスター	

[デュプリケーター]

1.コピー

ステップ 1: ソースデバイスとターゲットデバイスを準備する。

備考

推奨。ターゲットデバイスの容量は、ソースデバイスの容量と同じかそれ以上である必要があります。

ステップ 2: ソースデバイスとターゲットデバイスを接続します。

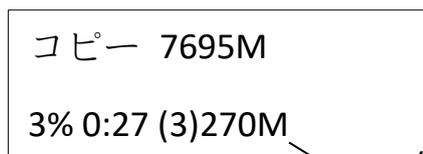
ステップ 3: コピーに進む。

スクロールして「1.コピー」を選択し、「OK」を押すと複製が開始されます。

備考

動作中/接続中のターゲットの数が LCD に表示されます。OK」を押すとスタートします。

以下は、デュプリケーション中に LCD に表示される内容です。



コピー 7695M
3% 0:27 (3)270M

(3)はポート#3 が最も遅いことを示します。

備考

- 複製前に、「6.1 コピー領域」でデータ領域を選択します。
- 5 秒間▲▼を同時に押すと、最も遅いデバイスの動作を停止します。
- ESC」を 5 秒間押すと、すべてのコピージョブが停止します。

ステップ 4: コピー完了

コピー完了後、LCD に合格・不合格の数量とコピーされた時間が表示されます。

備考

- コピー中にフラッシュカードが取り外されると、システムは直ちに停止し、赤ランプが点灯してコピーに失敗したことを知らせます。コピー中にフラッシュカードを取り外すことは、フラッシュカードにダメージを与えるため、強くお勧めできません。
- コピーが完了すると、既存のデータは失われるため、コピー作業を開始する前にターゲットフラッシュカードのデータをバックアップしてください。

2.比較

比較機能は、コピー結果の精度をチェックする機能です。スクロールして「2.比較」を選択し、「OK」ボタンを押すと、検証を開始します。

3.コピー＋比較

機能 1→コピー→機能 2→比較の順で自動化します。

スクロールして「3.コピー＋比較」を選択し、「OK」を押すと自動複製と検証が開始されます。

4.フォーマットを行う

4.1 オートフォーマット

フラッシュを FAT にフォーマットする機能です。フラッシュメディアを挿入し、「OK」を押します。システムが自動的に容量を検出し、容量に応じたフォーマットを行います。

- フラッシュメディアのフォーマットがすでに FAT16 または FAT32 である場合、フォーマット機能はその元のフォーマットを変更することはありません。
- 元のフラッシュメディアが FAT フォーマットでない場合、すなわち NTFS、Linux または FAT マルチパーティションである場合。

システムは、フラッシュの容量ごとにフォーマットします。容量が 2GB 以上の場合は FAT32 に、2GB 以下の場合は FAT16 にフォーマットされます。

容量 < 2GB	フォーマット FAT16
容量 > 2GB	FAT32 のフォーマット

備考

この機能はフラッシュメディアのデータを削除するため、ソースポートではフォーマットは行われません。

4.2 FAT16 フォーマット

FAT16 フォーマットを設定します。

4.3 FAT32 形式

FAT32 フォーマットを設定します。

4.4 FAT16 のクラスタサイズを設定する

FAT16 クラスタサイズを設定します。

4.5 FAT32 のクラスタサイズを設定する

FAT32 のクラスタサイズを設定します。

5.消去

注意事項

フラッシュデータは消去されます。この機能を使用する前に、必ず大切なデータをバックアップしてください。

備考

機能 [7. Working Mode] > [6. Setup] > [10.Erase Master Port]でサニタイズ元ポートの有効/無効を設定することができます。

5.1 クイック消去

元のフラッシュのフォーマットが **FAT16/32** の場合、フォーマットを維持したままフラッシュデータを消去する機能です。ボタンで状態、進行状況、情報を確認できます。

備考

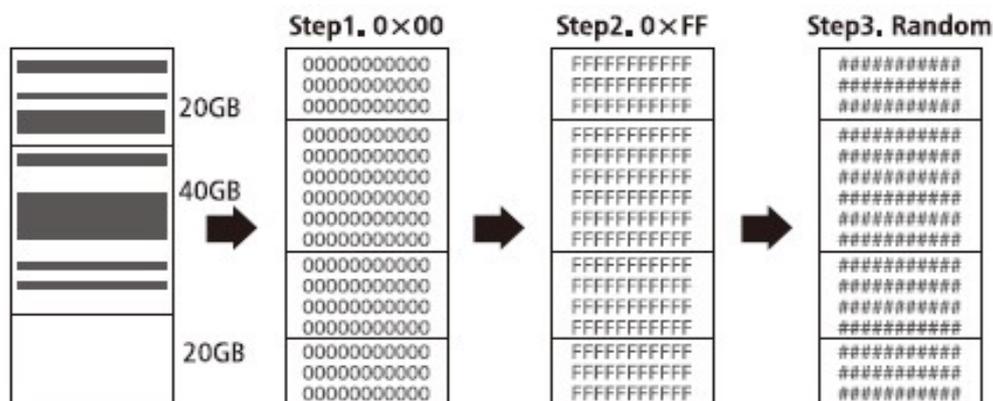
クイックイレーズ機能は、**FAT16/32** フォーマットされたフラッシュのみを消去する機能です。

5.2 フル消去

フォーマットとコンテンツを含むフラッシュメディア全体を完全に消去します。このタスクには時間がかかります。この処理中に<ESC>を押すと、タスクは放棄されますが、元のフォーマットとコンテンツはもう読めなくなります。

5.3 DoD 消去

DoD Erase は、米国国防総省（DoD 5220）の規格に準拠しています。米国国防総省（DoD 5220）の規格に準拠し、フラッシュを 3 回消去することで、データの完全消去を保証しています。



備考

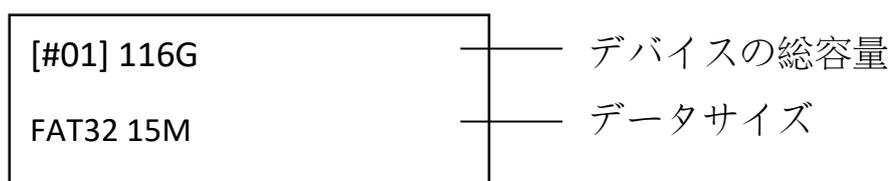
消去中の各ポートの状態は、▲▼ボタンで確認できます。

6.ユーティリティ

6.1 USB Info.

フラッシュメディアの基本情報（ファイル形式、コンテンツサイズ、総容量）を表示する設定です。

各フラッシュメディア、ソースを含む情報を▲▼ボタンで表示します。



備考

この機能を使用しても、フラッシュメディアのコンテンツやフォーマットは削除されません。

6.2 システム情報

型番やソフトウェアのバージョンなど、システムの情報を表示する機能です。

6.3 システムのアップデート

ステップ 1：アップデート用の **USB** メモリを用意する。

PC に USB ドライブを接続する。最新のファームウェアをダウンロードし、BIOS ファームウェアを解凍して、USB ドライブのルートディレクトリに保存します。

備考

USB のフォーマットは必ず **FAT16** または **FAT32** であること。
解凍したファイル「.bin」をアップデート用 USB にセットしてください。

ステップ 2：ファームウェアのアップデートに進む。

USB ドライブを接続する。スクロールして「**6.3 System Update**」を選択し、「**OK**」を押してファームウェアの更新作業を開始します。

注意事項

ファームウェアのアップデート処理には **5 分以上**かかる場合があります。**BIOS** アップデート中は、電源や処理を中断しないようにしてください。中断された場合、システムは使用できなくなります。万が一、不具合が発生した場合、販売元は一切の責任を負いかねます。

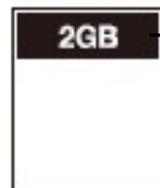
7. セットアップ

7.1 コピー領域

① システムおよびファイル

Also known as "Quick Copy". The source's format is automatically analyzed and if it's recognizable, such as, FAT 16/32/64, NTFS, or Linux ext. 2/3/4/LVM, the system will copy the data only, rather than the entire flash.

[コピー領域]
システムおよびファイル



2GB のデータのみコピー

備考

ファイル形式が認識できない場合、「システムとファイル」でコピー領域を指定しても、空き領域を含むフラッシュカード全体がコピーされます。

② ホールメディア

The system will copy the whole flash card, including empty space and format. This function is useful when users want to copy the whole flash or have a flash source with an unknown format. "Whole media" copies take a bit longer to complete.

[コピー領域]
ホールメディア



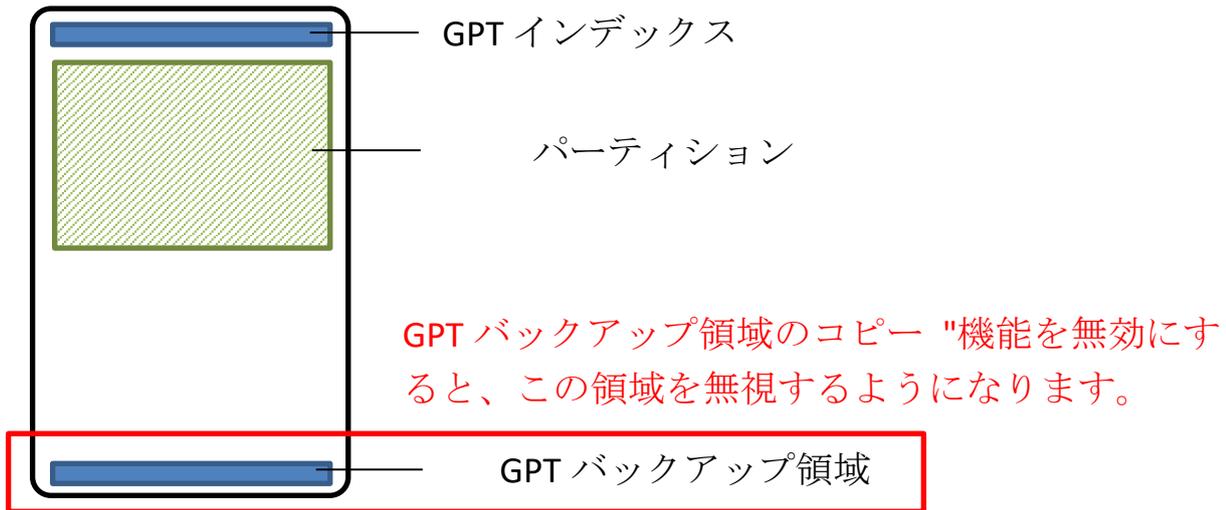
コピー合計 8GB

7.2 GPT バックアップ領域のコピー

この機能を無効にすると、GPT バックアップ領域を無視し、大容量デバイスから小容量デバイスへのコピーが可能になります。

備考

バックアップ元 HDD のパーティションサイズは、ターゲット容量より小さくする必要があります。そうでない場合は、GPT バックアップ領域をそのまま残すことをお勧めします。



注意事項

GPT バックアップ領域は、次に Windows が再起動したときに自動的に再構築されます。Linux の場合、`gdisk` などのツールでこれらのバックアップを再構築することができます。

7.3 ボタン音

ボタンが押されたときに音を鳴らすかどうかを制御します。

7.4 アクティブ USB リビジョン

デュプリケーターの動作プロトコルを設定します。

① USB 2.0/3.0 両方。

デュプリケータは最初に USB3.1 を検出します。デバイスが USB3.1 プロトコルに対応していない場合、代わりに USB2.0 が検出されます。

② USB 2.0 のみ。

デュプリケータは USB2.0 のみを検出します。

③ USB 3.0 のみ。

デュプリケータは USB3.1 のみを検出します。USB3.1 プロトコルに対応していないデバイスの場合、"Fail" と表示されます。

7.5 コピー前の USB 信号のチェック

コピー機能を実行する前に、USB の信号チェックを行うことができるようになりました。信号検出に成功した USB のみコピー機能を実行することができます。初期設定は Both USB2.0/3.0 です。

備考

USB 信号検出の設定を変更したい場合は、「7.3 Active USB Revision」機能から行うことができます。USB2.0 のみ」または「USB3.0 のみ」を選択することができます。

7.6 ターゲット・トレランス

この関数は、ソースとターゲットのフラッシュ間の容量の許容範囲を設定します。容量が許容範囲外の場合、コピーに失敗します。

- ① 100% 同
- ② ノーリミット
- ③ 許容範囲

UP Limit の設定：ターゲット容量はソース容量より大きくすることができます。

UP Limit の設定：ターゲット容量はソース容量より小さくすることができます。



7.7 非同期

ユーザーは、「Enable」を選択して非同期コピーを有効にするか、「Disable」を選択して無効にすることができます。非同期コピーを実行するには、ソースのデータがシステムのバッファメモリより小さく、「Enable」に設定されている必要があります。ただし、「Disable」に設定すると、コンテンツサイズに関係なく、同期コピーが実行されます。

"非同期コピー"実行の条件		
	DISABLE 非同期コピー	ENABLE 非同期コピー
データ > バッファ	⊗	⊗
データ < バッファ	⊗	✔

備考

バッファメモリは、製品モデルによって異なる場合があります。

7.8 コピー+コンペア間の電源オフ時間

この設定を使用することで、不安定なフラッシュによるデータ損失を防ぐことができるため、強くお勧めします。コピーと比較の間の電源供給の時間間隔を設定することができます。0 秒から 15 秒の間で設定可能です。デフォルトは "3" です。

7.9 言語

システムの言語を設定します。

7.10 イレースマスターポート

初期設定は "Off" です。オンにすると、マスターポートで消去、フォーマット、品質チェックを行うことができますようになります。

7.11 スキップソースバッドセクター

コピー/コンペア/イレース中にソースバッドセクタをスキップします。スクロールして「Skip Source Bad Sectors」を選択し、「OK」を押して、ソースの不良セクタをスキップするために利用可能な値をスクロールします。ソースのデータが重要であり、完全なクローンを作成する必要がある場合は、「0」を設定することをお勧めします。

7.12 コピー後のディスクシグネチャを削除する

コピー後に Disk Signature を削除することを許可するかどうか。

7.13 デフォルトに設定する

すべての設定をメーカー出荷時の状態に戻します。

8.動作モード

[テスター]

1.メディアチェック

備考

- 上書き "と記載された機能は、フラッシュメディアの内容やフォーマットを変更しますので、重要なデータが保存されている場合は実行しないでください。
- ソースデータを保護するため、システムのデフォルト設定では、マスターデバイスでこの機能を実行しないようになっています。
- この機能はフラッシュメディアのデータを削除するため、ソースポートではフォーマットは行われません。

1.1 H2（キープフォーマット）

この機能は、フラッシュの品質を判断するために、読み取りと書き込みのテストを実行します。H2(Overwrite)テスト後、オリジナルフォーマットにフォーマットされます。(FAT16、FAT32、exFAT に対応)。

1.2 H2（データ保持）

この機能は、H2 ファイルによる空き領域での読み書きのテストを行い、フラッシュの品質を判断するものです。このテストでは、フラッシュのオリジナルデータは消去されません。

1.3 H2(オーバーライト)

この機能は、フラッシュの品質を決定するために、読み取りと書き込みのテストを実行します。H2 (Overwrite) テスト後、デバイスには H2 ファイルが保存され、必要に応じてコンピュータのソフトウェアで再度ベリファイすることができます。

1.4 H5(キープフォーマット)

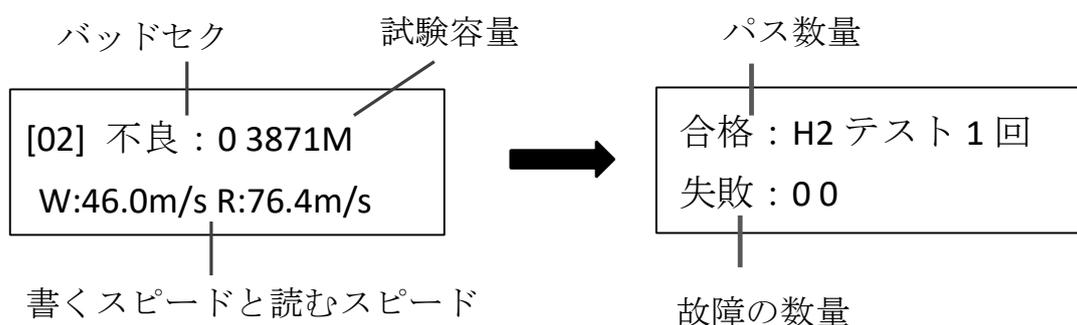
この機能は、空き領域に対して読み書きのテストを行い、フラッシュの品質を判断するものです。デバイスはオリジナルフォーマットにフォーマットされます。(FAT16、FAT32、exFAT に対応しています。)

1.5 H5（データ保持）

この機能は、フラッシュの品質を判断するために、空き領域に対して読み取りと書き込みのテストを実行します。このテストでは、フラッシュのオリジナルデータは消去されません。

1.6 H5(オーバーライト)

この機能は、フラッシュの品質を判断するために、読み取りと書き込みのテストを実行します。このテストでは、フラッシュのオリジナルデータは消去されます。



1.7 セットアップ範囲 %.

品質チェックの能力範囲を設定する機能です。ボタンで1～100%の範囲を設定します。パーセントが高いほど、時間がかかります。

1.8 セットアップ範囲 MB

品質チェックの容量範囲を MB 単位で設定する機能です。ボタンで 1MB～9000MB の範囲を設定します。

備考

Range%と Range MB の両方が設定されている場合、最後に設定された方に従います。

1.9 セットアップエラーリミット

フラッシュチェック時のエラー許容範囲を設定する機能です。ボタンでエラー許容値を設定します。使用する単位（KB または MB）を選択し、値を選択します。

1.10 最小読み取り速度

この機能は、読み取り速度が遅すぎるフラッシュメディアを選別するために使用します。メディアチェックの際に、想定される最低読み取り速度を設定することがで

きますので、最低速度の値に達しないフラッシュメディアを特定することができます。

1.11 最低書き込み速度

この機能は、書き込み速度が遅すぎるフラッシュメディアを選別するために使用します。メディアチェックの際に想定される最低書き込み速度を設定することができるので、最低速度値に達しないフラッシュメディアを特定することができます。

備考

エラーが発生したことを示す赤ランプが点灯したら、▲▼ボタンでエラー情報を表示します。

1.12 容量制限を設定する

この機能は、フラッシュ・デバイスのテスト容量制限を設定するために使用されます。ユーザーはフラッシュ容量の上限と下限を設定することができます。リセットするには、"clear limit"を選択します。

1.13 USB 信号の事前チェック

この機能により、メディアチェックの前にテスターで信号テストを行うかどうかを設定することができます。

① "必要ない"

テスターはメディアチェックの前に USB の信号チェックを行いません。

② "USB 3 信号"

テスターはメディアチェックの前に USB3.1 信号のテストを行います。

③ "USB 2 信号"

テスターはメディアチェックの前に USB2.0 信号のテストを行います。

④ "USB2、3 信号"

テスターは、メディアチェックの前に USB2.0 と USB3.1 の両方の信号テストを行います。

2.信号の検出

2.1.USB2 と USB3

USB2.0 と USB3.1 の両方の信号を検出する機能です。信号が認識できない場合は、赤色で表示されます。



2.2.USB3 のみ

デバイスの USB2.0 信号を検出する機能です。

2.3.USB2 のみ

デバイスの USB3.1 信号を検出する機能です。

3.速度測定

フラッシュメディアの "読み" と "書き" の速度を測定する機能です。

- ① フラッシュメディアを挿入し、機能「3.速度測定」を選択し、「OK」ボタンを押すと、この機能が開始されます。



- ② 各ポートの正確な「読み込み」「書き込み」フラッシュメディアの速度を表示するには、▲▼キーを使用します。

備考

- ソースデータ保護のため、マスター機では「速度測定」を実行しません。
- この機能は、フラッシュのフォーマットやデータ内容を変更することがあります。

4.フォーマットを行う

4.1 オートフォーマット

フラッシュを FAT にフォーマットする機能です。フラッシュメディアを挿入し、"OK"を押します。システムが自動的に容量を検出し、容量に応じたフォーマットを行います。

- フラッシュメディアのフォーマットがすでに **FAT16** または **FAT32** である場合、フォーマット機能はその元のフォーマットを変更することはありません。
- 元のフラッシュメディアが **FAT** フォーマットでない場合、すなわち **NTFS**、**Linux** または **FAT** マルチパーティションである場合。
システムは、フラッシュの容量ごとにフォーマットします。容量が **2GB** 以上の場合は **FAT32** に、**2GB** 以下の場合は **FAT16** にフォーマットされます。

容量 < 2GB	フォーマット FAT16
容量 > 2GB	FAT32 のフォーマット

備考

この機能はフラッシュメディアのデータを削除するため、ソースポートではフォーマットは行われません。

4.2 FAT16 フォーマット

FAT16 フォーマットを設定します。

4.3 FAT32 形式

FAT32 フォーマットを設定します。

4.4 FAT16 のクラスタサイズを設定する

FAT16 クラスタサイズを設定します。

4.5 FAT32 のクラスタサイズを設定する

FAT32 のクラスタサイズを設定します。

5.ユーティリティ

5.1 USB 情報。

フラッシュメディアの基本情報（ファイル形式、コンテンツサイズ、総容量）を表示する設定です。

各フラッシュメディア、ソースを含む情報を▲▼ボタンで表示します。

[#01] 3871M	— デバイスの総容量
FAT32 230M	— データサイズ

備考

この機能を使用しても、フラッシュメディアのコンテンツやフォーマットは削除されません。

5.2 システム情報

型番やソフトウェアのバージョンなど、システムの情報を表示する機能です。

5.3 システムのアップデート

ステップ 1：アップデート用の USB メモリを用意する。

PCに USB ドライブを接続する。最新のファームウェアをダウンロードし、BIOS ファームウェアを解凍して、USB ドライブのルートディレクトリに保存します。

備考

USB のフォーマットは必ず FAT16 または FAT32 であること。
解凍したファイル「.bin」をアップデート用 USB にセットしてください。

ステップ 2：ファームウェアのアップデートに進む。

USB ドライブを接続する。スクロールして「5.3 System Update」を選択し、「OK」を押してファームウェアの更新作業を開始します。

注意事項

ファームウェアのアップデート処理には 5 分以上かかる場合があります。BIOS アップデート中は、電源や処理を中断しないようにしてください。中断された場合、システムは使用できなくなります。万が一、不具合が発生した場合、販売元は一切の責任を負いかねます。

6.動作モード

2つの動作モードには、それぞれ異なるメニューが用意されています。

6.1 デュプリケーター

P.11 より、本マニュアルガイドをご参照ください。

6.2 テスター

P.19 より、本マニュアルガイドをご参照ください。

*仕様は予告なく変更されることがあります。